

財団のひとりごと

琵琶湖には本当にへどろが堆積しているのか

今年も琵琶湖でアオコの発生が報じられました。琵琶湖でアオコの発生が報じられるようになって久しく、発生は依然として局所的ではあるものの、水質の悪化に予断が許されない状況はなかなか改善の兆しが見えません。

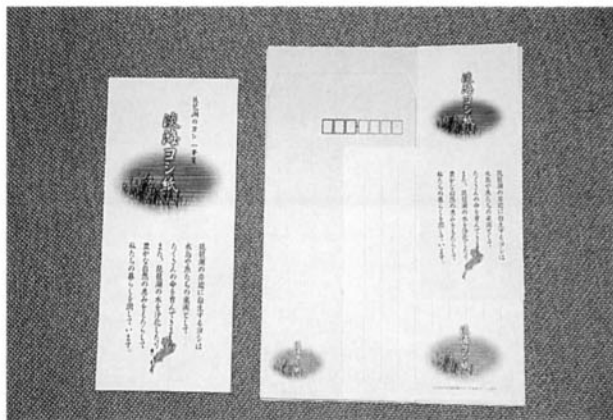
アオコは、その水域全体の環境悪化と捉えられ、琵琶湖のイメージを著しく傷つけていることは否めません。そのため県は、水質の改善を図るため、アオコの発生水域の内、特に南湖の水質に影響を及ぼすと見られ底質のN、Pの量の多い赤野井湾の水質改善が重点的に実施されることになり、その施策の一つとして、県による琵琶湖ではじめての浚渫が実施されることになりました。

琵琶湖の湖底には、大量のへどろが堆積していると、広く信じられており、この浚渫はへどろの浚渫と一般に理解されています。

広辞苑によると、へどろとは、「流れの悪い水底などにたまった軟らかい汚泥、不溶性の有機物を含むことがある」と書かれており、汚れた「どろどろの泥」をイメージされます。

しかし、現実に琵琶湖では、そのような水域はほとんどなく、赤野井湾の場合は粘土質で、せいぜい2~3センチの厚さの浮泥があるにすぎないようです。NやP成分を多く含んでいる琵琶湖底泥の浚渫は積極的に進める必要がありますが、このような誤解は、琵琶湖全体の環境を必要以上に悪く印象づける嫌いがあります。このようなイメージを抱いているのは一般県民だけでなく行政担当者にも多いというのは残念なことです。県民と行政が一体となって命の水の再生に取り組んでいるとき、琵琶湖に対する誤ったイメージを払拭することが大切ではないでしょうか。

ヨシ紙製のレターセット・ 一筆箋はいかがですか



当財団では、ヨシ紙を使ったレターセットと一筆箋の販売を新たに始めました。

レターセットは、便箋6枚、封筒3枚とハガキ2枚がセットに、一筆箋は20枚がセットになっており、いづれも琵琶湖のヨシ原をあしらった洒落たデザインです。

販売価格は、レターセットが450円、一筆箋が370円となっています。(税込) 通信販売もしていますので、ぜひご購入下さい。

賛助会員を募集しています

当財団では、財団の事業を理解し、応援していただける賛助会員を募集しています。賛助会員は、財団事業に対し提言をいただいたり、研究会や交流会に参加いただくことにより、環境保全により関心を持っていただくとするものです。この趣旨に賛同し、加入いただける方をおまちしています。加入いただける方は当財団までご連絡下さい。

(年会費 個人二、〇〇〇円、法人三〇、〇〇〇円)